

高知県立美術館 ARTIST FOCUS #03

角田和夫 土佐深夜日記—うつせみ

SUMIDA KAZUO: Tosa Late Night Diary — Utsusemi

2022年10月29日（土）－2023年1月9日（月・祝）



〈土佐深夜日記〉より 1984-90年頃

高知ゆかりの作家によるシリーズ企画・第3弾。

欧米でも高い評価を受ける、林忠彦賞受賞写真家・^{すみだかずお}角田和夫（1952－）が
“土佐の夜”を写したシリーズを特集展示します。

1. 開催概要

展覧会名 高知県立美術館 ARTIST FOCUS #03 角田和夫 土佐深夜日記—うつせみ

会期 2022（令和4）年10月29日（土）－2023（令和5）年1月9日（月・祝）

9：00～17：00（入場は16：30まで） 休館：12月27日－1月1日

観覧料 一般当日 370（290）円・大学生 260（200）円・高校生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金。※年間観覧券所持者は無料。※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者（1名）、高知県及び高知市長寿手帳所持者は無料。※「合田佐和子展」（11/3－1/15）観覧券所持者は無料（当日限り有効）。※本展観覧券で他のコレクション展もご覧いただけます。※11月3日（木・祝）は開館記念日のため観覧無料。

会場 高知県立美術館 1階 第4展示室

主催 高知県立美術館（公益財団法人高知県文化財団）

後援 南国市、高知新聞社、RKC高知放送、KUTV テレビ高知、KSSさんさんテレビ、KCB
高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティ FM 放送

助成 公益財団法人朝日新聞文化財団

2. 概要

「ARTIST FOCUS」の第3回として、高知県南国市在住の写真家、角田和夫の個展を開催します。

幼少より対人関係に悩み、閉じこもりがちで失意に暮れる思春期を過ごした角田は、20歳頃に兄からカメラを譲り受けたことで、外界と関わり合う方法としての写真と出会います。以降、カメラに導かれるようにして、自らの表現と活動のフィールドを押し広げてきました。

本展では、角田が一貫して拠点とする高知の街を、肉眼では見えない光も捉えることができる赤外線フィルムによって写した3つのシリーズに焦点をあてます。暗夜の公園や雑木林を心象風景として切り取った最初期作〈満月の夜〉、叔父の勤めるゲイバーを中心に80年代の歓楽街を写した〈土佐深夜日記〉、そして三十余年を経てパンデミック禍の高知に再びカメラを向けた最新作〈続土佐深夜日記〉によって構成し、独自の抒情性を湛えた作品世界を紹介します。

本展タイトルにある「うつせみ」とは、“この世”、あるいは“この世を生きる人”を意味します。被写体に自身の弱さや孤独な心情を響き合わせることで生み出されるモノクロームの写真には、夜の闇の深さと共に、そこに生きる人々が放つ、力強く眩いまでの光が焼き付けられています。撮影と暗室作業は、自身を癒す“セラピー”だと語る角田の作品を通して、観る人それぞれが今を生きることの手触りを得られる場となれば幸いです。

*ARTIST FOCUS とは…ジャンルや年齢を問わず、当館学芸員が推薦した高知ゆかりの作家を紹介する展覧会シリーズ

*本展には、一部の作品に性的な表現が含まれています。

3. 本展のみどころ

① 地元作家シリーズ第3弾

ジャンルや年齢を問わず、当館学芸員が推薦した高知ゆかりの作家を紹介する展覧会シリーズ「ARTIST FOCUS (アーティスト・フォーカス)」の第3弾として開催します。

過去の ARTIST FOCUS

第1回：竹崎和征「雨が降って晴れた日」(絵画)

第2回：平川恒太「Cemetery 祈りのケイショウ」(絵画、インスタレーション、現代美術)

② “土佐の夜”にフォーカス

「シベリアへの旅路 わが父への想い」、「ニューヨーク地下鉄ストーリー」、「マニラ深夜日記」など、世界各地でシリーズを展開してきた角田。本展は、最初期作「満月の夜」、欧米でも評価の高い代表作「土佐深夜日記」、コロナ禍以降の最新作「続土佐深夜日記」によって構成し、赤外線フィルムで地元・土佐の夜を写したシリーズを特集します。

③ 関連イベントでより深く

作家本人や担当学芸員によるトークの他、写真評論家の飯沢耕太郎氏をゲストに迎えたトークや、「土佐深夜日記」の主な被写体である80年代ゲイカルチャーを歴史的な変遷を踏まえ今日的な視点から考えるレクチャーを実施。「土佐深夜日記」をはじめとした角田の仕事を様々な角度から検証します。

4. 各シリーズについて

i. 満月の夜（1984-86年頃）



高校卒業後、就職先でいじめに遭い、心を病んで帰郷したという角田は、心配した兄からカメラを譲り受けたことで、セラピー／自己表現としての写真にのめり込んでいきました。深夜の公園や雑木林にひとり身を置き、見えないものに向けてシャッターを切るという瞑想的な撮影行為によって生み出された本シリーズは、絶望の淵において一瞬の煌めきを掴もうともがく角田の心象風景といえるでしょう。（展示点数：約 30 点）

ii. 土佐深夜日記（1984-86年頃）



深夜の撮影を続ける中で、徐々に角田は繁華街へも眼差しを向けるようになります。高知市中心部に位置したゲイバー（当時の通称はコミックハウス）「野ばら」に勤めていた叔父との偶然の再会をきっかけに、「野ばら」を拠点として夜の街に生きる人々の姿の撮影に集中して取り組みました。フラッシュの光が目立たない赤外線フィルターの使用によって、人々の自然な様子を捉えることに成功していることに加え、赤外線を感じるフィルムの特性により、闇はより黒く、そして明るいものは発光するかのように白くなる独特の諧調で表されています。これらのイメージはどこか幻想的で虚構的な、束の間の“生”を強く印象付けます。あくまで異邦人／非当事者でありながら、自身の心情と響き合う対象を見つけ、その姿に迫ってゆくスタイルは、ニューヨークやシベリア、マニラなど、海外の都市を写した後のシリーズにも一貫するものです。（展示点数：約 80 点）

iii. 続土佐深夜日記（2020-22年）



定期的に渡米し、世界の中心地・ニューヨークを撮影するというライフワークを四半世紀続けていた角田にとって、海外渡航が制限されるコロナ禍は大きなフラストレーションとなりました。そんななか押さえられない創作意欲を向けたのは、自身にとって原点ともいえる、地元高知の繁華街でした。自粛・時短要請によってひっそりと静まり返った街や、困難な中でも人生を楽しみ懸命に生きる人々の姿を「土佐深夜日記」と同じく赤外線フィルムによって写しています。被写体となった人々とコミュニケーションを取りながらその演出／非演出を超えた姿を写した本シリーズは、現代におけるスナップ写真のひとつの可能性を示すようです。（展示点数：約 40 点）

5. 関連イベント

○アーティストトーク

作家が会場で作品についてお話しします。

日時 11月3日(木・祝) 11:00-12:00

会場 当館1階 第4展示室

[参加無料・予約不要] <11月3日(木・祝)は開館記念日のため観覧無料>

○ゲストトーク

写真評論家の飯沢耕太郎氏をゲストに迎えトークを行います。

日時 12月10日(土) 14:00-15:30 (13:30開場)

登壇者 飯沢耕太郎(写真評論家)、角田和夫

会場 高知県立美術館ホール

[参加無料・要予約]

飯沢耕太郎

写真評論家。1954年、宮城県生まれ。日本大学芸術学部を経て、1984年に筑波大学大学院芸術学研究科(博士課程)修了。主な著書に『芸術写真』とその時代』(1986年)、『写真美術館へようこそ』(1996年)、『デジグラフィ』(2004年)、『写真的思考』(2009年)、『写真集の本』(共著、2021年)などがある。

○レクチャー「LGBTからクィア、SOGIEへ」

「土佐深夜日記」を元に、セクシュアリティをめぐる言説の変遷と人権課題を考えます。

日時 12月25日(日) 14:00-15:30 (13:30開場)

登壇 ソーシャルアライ・コナツハット

[長澤紀美子(高知県立大学教員)、伊藤満里奈(公認心理師)、浜口蓮生]

会場 当館1階 講義室

[参加無料・要予約]

ソーシャルアライ・コナツハット

わたしがわたしであるために。多様な性のありよう「SOGI」を認め合う対等な社会を目指して2016年に設立。通称「SAWACH!(サワチ)」。サワチ(皿鉢)とは、様々な料理を大皿にのせた高知の郷土料理で、多様な性のあり方を地域で認め合う社会作りをイメージしたもの。

○クロストーク

作家と担当学芸員の対談形式で、本展についてお話しします。

日時 2023年1月7日(土) 14:00-15:30 (13:30開場)

登壇 角田和夫、朝倉芽生(当館学芸員・本展企画者)

会場 当館1階 講義室

[参加無料・要予約]

※予約は電話(088-866-8000/9:00-17:00)にて受付。

※いずれも予定。イベントは変更となる可能性があります。

- 同時期開催** 企画展「合田佐和子展 帰る途もつもりもない」11月3日(木)-2023年1月15日(日)
※合田展観覧券で本展もご覧いただけます。

6. 作家略歴

- 1952年 高知県高知市生まれ
 1970年 高知県立高知工業高等学校機械科卒
 1983年 大阪写真専門学校卒
 1999年 文化庁派遣芸術家在外研修員（ニューヨーク）
 2002年 第11回林忠彦賞受賞
 2020年 よんでん芸術文化賞受賞

主な個展・グループ展

- 1988年 個展「満月の夜」コダック・フォトサロン（東京） 他
 1989年 個展「土佐深夜日記」銀座ニコンサロン
 1995年 個展「追憶の旅―旧・満州へ―」富士フォトサロン・プロスペース（東京） 他
 1997年 個展「散歩の風景―私の見たニューヨーカー―」コニカプラザ（東京） 他
 2001年 個展「ニューヨーク地下鉄ストーリー」新宿ニコンサロン
 2002年 第11回林忠彦賞受賞記念写真展「ニューヨーク地下鉄ストーリー」徳山市美術博物館（現・周南市美術博物館） 他
 「NO BORDER #2」高知県立美術館
 2004年 個展「シベリアへの旅路―わが父への想い―」コダック・フォトサロン（東京）
 2005年 個展「Vladivostok Daytime」アルカ・ギャラリー（ウラジオストク）
 個展「New York Days, New York Nights」OK HARRIS WORKS OF ART（ニューヨーク）
 2006年 「宮崎進&角田和夫二人展 シベリアから平和を考える」香美市立美術館（高知）
 2010年 個展「My Journey to Siberia」コダック・フォトサロン（東京）
 2011年 「New York Offer」ARLATINO ギャラリー（アルル）
 2012年 アートフェア「Paris Photo」（パリ）
 2013年 個展「Notes from Underground: Memories of my Uncle」ローレンス・ミラー・ギャラリー（ニューヨーク）
 2015年 アートフェア「The Photography Show presented by AIPAD」（ニューヨーク）
 2016年 個展「マニラ深夜日記」ソニーイメージングギャラリー銀座
 2019年 「Grace: Gender - Race - Identity」ローレンス・ミラー・ギャラリー（ニューヨーク）
 個展「New York Night and Day」ソニーイメージングギャラリー銀座
 2020年 個展「哀糸豪竹」リコーイメージングスクエア銀座 ギャラリー A.W.P

主な写真集

- 2002年 『ニューヨーク地下鉄ストーリー』（クレオ）、『シベリアへの旅路―わが父への想い』（同）
 2009年 『My Journey to Siberia』（同）
 2014年 『土佐深夜日記』（同）
 2016年 『マニラ深夜日記』（同）

主な連載

- 1993年 高知新聞「元無名兵士の手記から―旧・満州へ―」
 2003年 高知新聞「シベリアへの旅路―我が父への想い―」
 2007年 高知新聞「こころを紡ぐもの 白と黒の世界」（-08年）
 2011年 高知新聞「写真旅日記 アルルからニューヨークへ」

主なパブリックコレクション

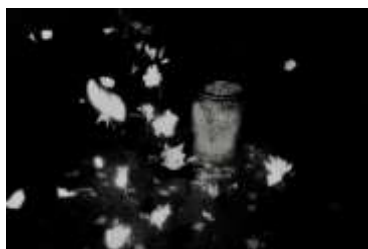
シカゴ美術館、デンバー美術館、スミソニアン国立アジア美術館、周南市美術博物館

7. 広報画像

i. 満月の夜 (1984-86 年頃)



1



2



3

ii. 土佐深夜日記 (1984-90 年)



4



5



6



7



8



9

iii. 続土佐深夜日記 (2020-22 年)



10



11



12

※いずれも出品は予定。

※画像利用をご希望の場合は、下記担当者までご連絡ください。

8. 連絡先

高知県立美術館 〒781-8123 高知県高知市高須 353-2 Tel: 088-866-8000 Fax: 088-866-8008

担当：学芸課 朝倉 E-mail: mei_asakura[at]kochi-bunkazaidan.or.jp